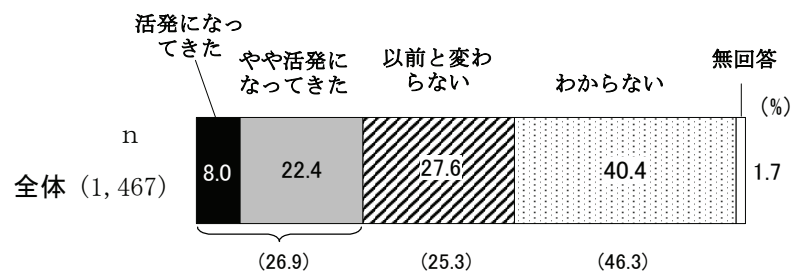


12. 市民活動・食品廃棄の問題

- 県政に関する世論調査結果では、約3割の県民が地域での市民活動の状況は活発になってきたと感じています。
- 家庭での食べ残し・廃棄について、農林水産省の平成18年度の調査によると食品ロス率は3.7%で17年度の4.2%より少なくなっています。しかし、単身世帯は6.4%で17年度の5.0%から増加しています。食品廃棄物のうち一般家庭から発生するものは57.5%となっています。
- 食育に関する意識調査では、ほとんどの人が食べ残しを減らす努力をしており、食品産業や家庭における食べ残しや食品の廃棄について「もったいない」と感じています。
- ごみやリサイクル問題についての県民への世論調査結果では、ごみをそのまま捨てている人は約2割います。
一方、ごみを少なくする配慮や工夫をし、リサイクルしている人は、7割台半ばに達しています。
- 食品の廃棄の問題に目を向けたごみ問題への取り組みが必要となっています。

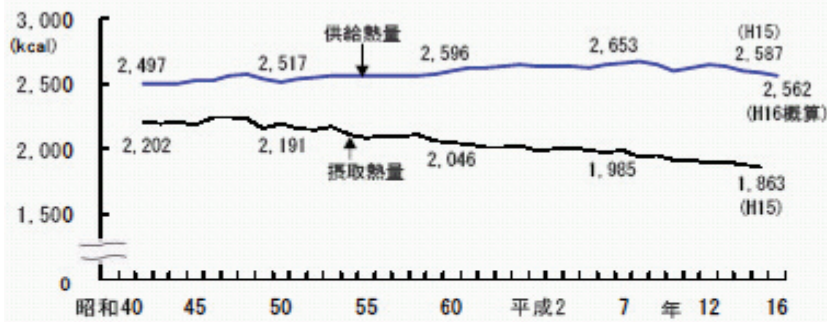
図表—109 市民活動の地域での状況(千葉県)

市民活動の地域での状況を聞いたところ、「活発になってきた」(8.0%)と「やや活発になってきた」(22.4%)を合わせた『活発になってきた』(30.4%)が3割となっています。一方、「以前と変わらない」(27.6%)は約3割となっています。なお、「わからない」(40.4%)が4割です。



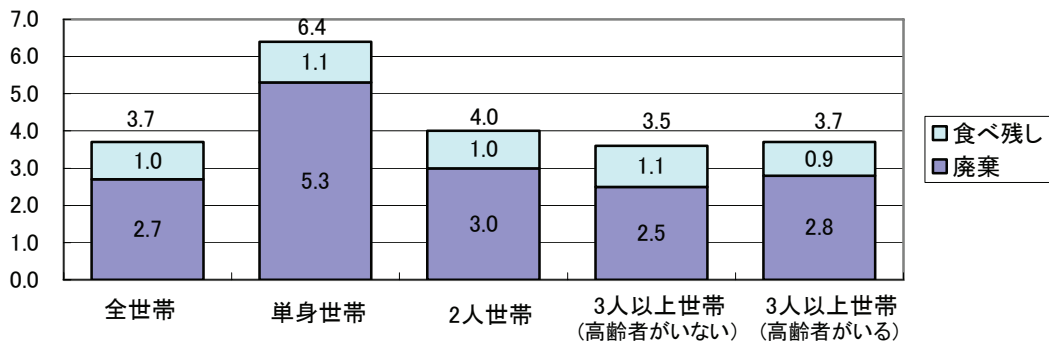
資料：平成18年度第32回県政に関する世論調査結果(千葉県)

図表—110 ○供給熱量と摂取熱量の推移(1人1日当たり：全国)



(資料)農林水産省「食料需給表」、厚生労働省「国民栄養調査」
 (注)
 1. 酒類を含まない。
 2. 両熱量は、統計の調査方法及び熱量の算出方法が全く異なり、単純には比較できないため、両熱量の差はあくまで食べ残し・廃棄の目安として位置付け。

図表—111 世帯における食品ロス率(全国)



食品ロス率とは、純食料のうち食品の廃棄や食べ残されたものをいう。

$$\text{食品ロス率 (\%)} = \frac{\text{食品ロス量}}{\text{食品利用量}} \times 100$$

資料：食品ロス統計調査(平成18年度調査)の結果の概要(農林水産省)

図表—112 食品廃棄物の発生及び処理状況(平成14年度：全国)

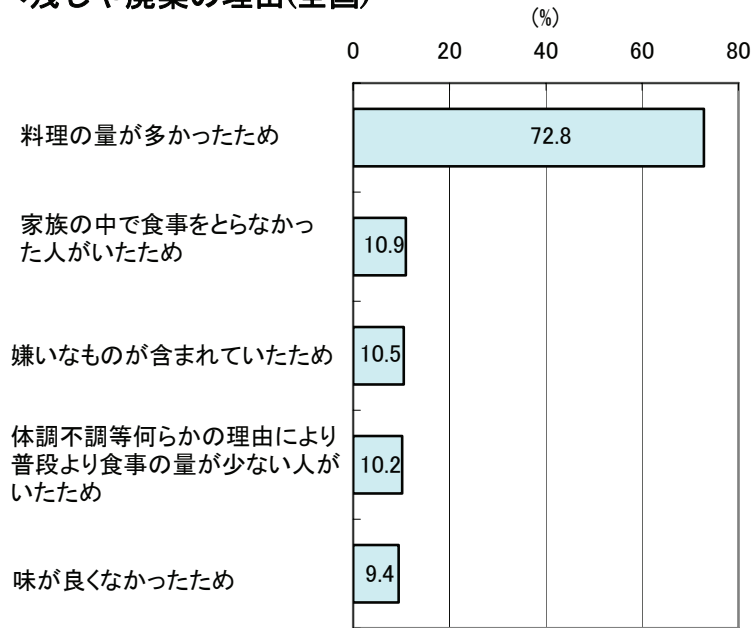
(単位：万トン)

	発生量	処分量				
		焼却・埋立処分量	再生利用量			
			肥料化	飼料化	その他	計
一般廃棄物	1,633	1,486	—	—	—	147
うち家庭系	1,134	1,108	—	—	—	26
うち事業系	499	378	39	33	49	121
産業廃棄物	339	74	114	101	50	265
合計	1,972	1,560	—	—	—	412

出典：環境省「日本の廃棄物処理」、「産業廃棄物排出・処理状況調査報告書」及び農林水産省「平成16年 食品循環資源の再生利用等実態調査」より農林水産省・環境省試算

資料：「環境統計集」(環境省) 第3章物質循環 食品リサイクル

図表—113 食べ残しや廃棄の理由(全国)

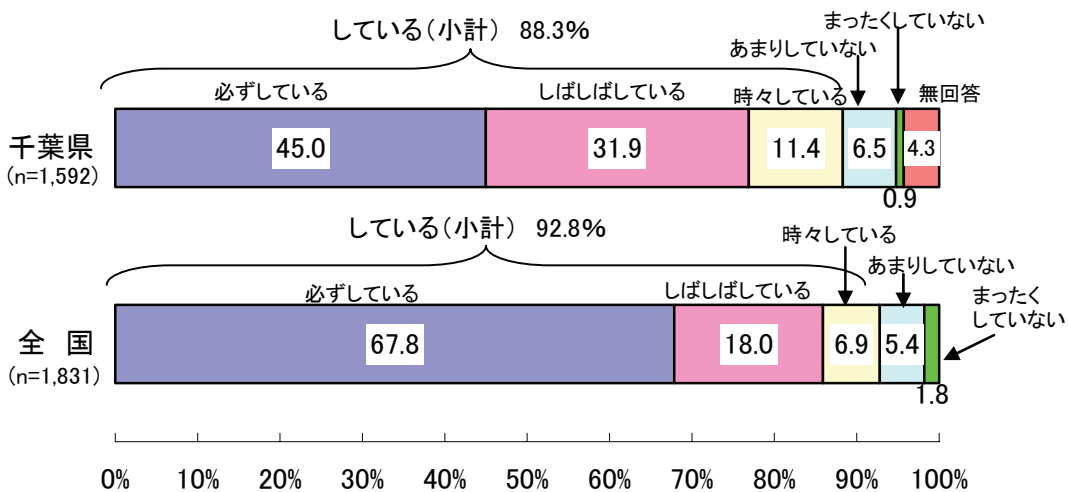


資料：食品ロス統計調査(平成 18 年度調査)の結果の概要(農林水産省)

図表—114 食べ残し等に対する意識

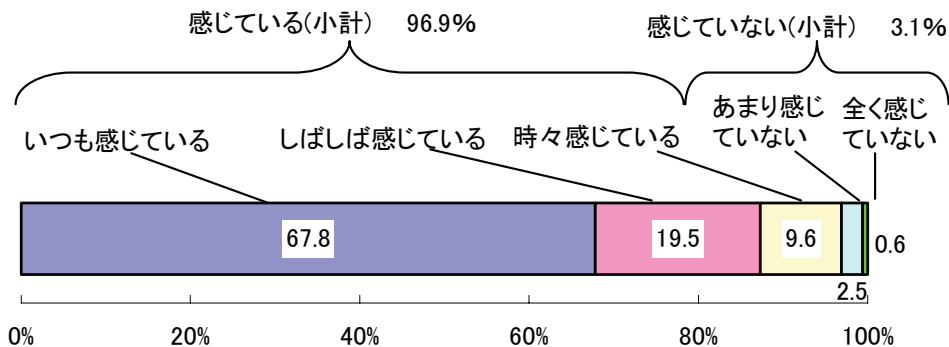
①食べ残しを減らす努力をしているか

※千葉県の場合は「無回答」を含んでいます。



資料：平成 19 年度第 35 回県政に関する世論調査結果(千葉県) 食育に関する意識調査報告書(平成 19 年 3 月：内閣府) をもとに作成

②食品産業や家庭における食べ残しや食品の廃棄を「もったいない」と感じるか

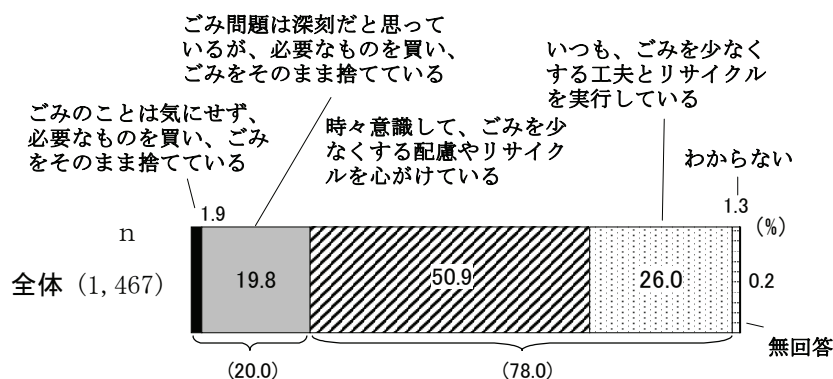


資料：食育に関する意識調査報告書(平成 19 年 3 月：内閣府) をもとに作成

図表—115

ごみやリサイクル問題のとらえ方(千葉県)

ごみやリサイクル問題のとらえ方を聞いたところ、「ごみのことは気にせず、必要なものを買、ごみをそのまま捨てている」(1.9%)と「ごみ問題は深刻だと思っているが、必要なものを買、ごみをそのまま捨てている」(19.8%)を合わせた『ごみをそのまま捨てている』(21.7%)は2割を超えています。一方、「時々意識して、ごみを少なくする配慮やリサイクルを心がけている」(50.9%)が5割と最も多く、「いつも、ごみを少なくする工夫とリサイクルを実行している」(26.0%)と合わせた『ごみを少なくする配慮や工夫をし、リサイクルをしている』(76.9%)は、7割台半ばで多数を占めています。



注) 下段の () 書きは、平成 14 年度の同様の項目の調査結果の「ごみのことは気にせず、必要なものを買、ごみをそのまま捨てている」と「ごみ問題は深刻だと思っているが、必要なものを買、ごみをそのまま捨てている」を合わせた『ごみをそのまま捨てている』及び「いつも、ごみを少なくする工夫とリサイクルを実行している」と「時々意識して、ごみを少なくする配慮やリサイクルを心がけている」を合わせた『ごみを少なくする配慮や工夫をし、リサイクルをしている』を参考として示している。

資料：平成 18 年度第 32 回県政に関する世論調査結果(千葉県)

図表—116

一般廃棄物の発生量と再資源化率

《1人1日あたりの一般廃棄物発生量の推移》

(g/人日)

	平成 12 年度	平成 13 年度	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度
千葉県	1,059	1,060	1,062	1,056	1,040	1,126
全 国	1,132	1,124	1,111	1,106	1,086	1,131

※平成 17 年度から集団回収量を含めて算出

《一般廃棄物の再資源化率の推移》

	平成 12 年度	平成 13 年度	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度
千葉県	19.9% (全国 3 位)	21.4% (全国 3 位)	23.2% (全国 1 位)	23.6% (全国 3 位)	24.2% (全国 2 位)	24.4% (全国 6 位)
全 国	14.3%	15.0%	15.9%	16.8%	17.6%	19.0%

資料：千葉県環境生活部資源循環推進課資料